

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の名称及び展示概要について

参考資料 1

1. 施設の名称

名称：『東日本大震災・原子力災害伝承館』

<名称選定の考え方>

- ・ 「未曾有の複合災害の記録と教訓を国や世代を超えて継承・発信する」という施設の事業目的を明確に示す名称であること。
- ・ 平易な日本語標記で、世代を問わず意味を理解しやすい名称であること。



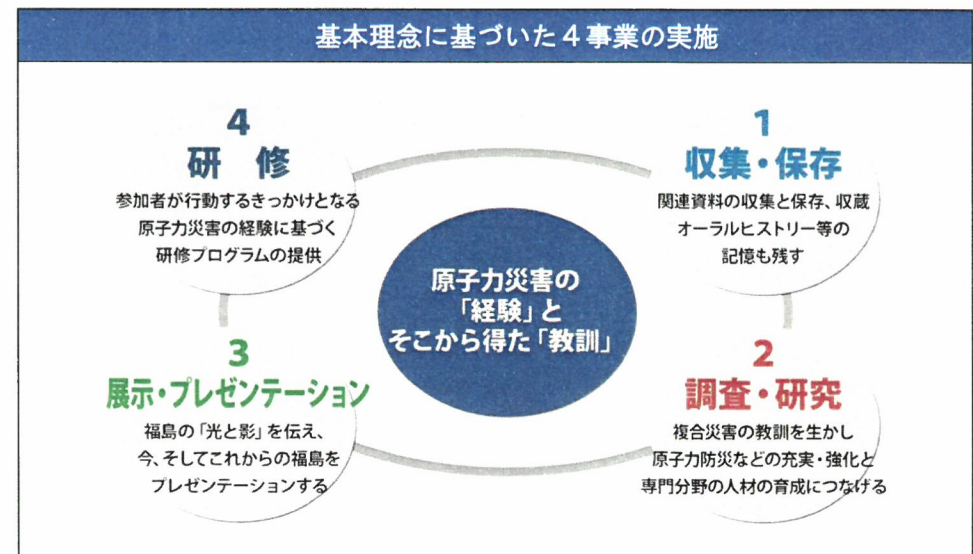
2. アーカイブ拠点施設の基本理念及び主要事業等（基本構想より抜粋）

基本理念

原子力災害と復興の記録や教訓の
未来への継承・世界との共有

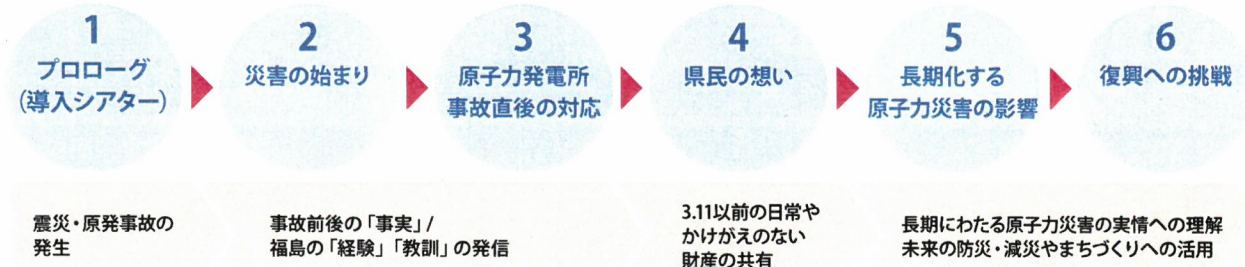
福島にしかない原子力災害の
経験や教訓を生かす
防災・減災

福島に心を寄せる人々や団体と連携し、
地域コミュニティや文化・伝統の再生、
復興を担う人材の育成等による
復興の加速化への寄与



<展示ストーリー>

展示・プレゼンテーションエリアでは、震災前の地域の様子から震災の発生、そして復興に向けて取り組む姿などについて、蓄積された資料や語り部による生の声により、1から6の展示ストーリーに沿って伝えていきます。



3. 展示・プレゼンテーションエリアの展示構成及び全体イメージ

1. プロローグ (導入シアター)



展示エリア全体のイントロダクションとして、震災前の地域の様子から、地震・津波・原子力発電所事故の発生、避難生活を経て、復興に向けて立ち上がる姿などを、床を含めた7面の大画面映像で表現。各展示ゾーンのガイドンスの役割を担う。

◆演出時スクリーンイメージ



3. 原子力発電所事故直後の対応



当時の実写映像やビッグデータを使用した映像解説

錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、当時の実写映像と、ビッグデータによる解析映像により、避難の様子などに焦点を当て伝える。また、事故発生に対する海外の反応や、支援に対する感謝についても伝える。

4. 県民の想い



平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか。災害発生時の不安や恐れ、学校生活の変化、家族や地域との別れ、将来への不安など、様々な県民の想いを、証言や思い出の品などの展示を通して伝える。

5. 長期化する原子力災害の影響

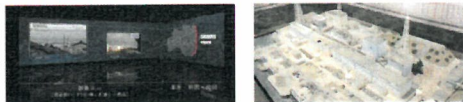


原子力災害が長期化する中で発生した様々な影響。その中から、除染、風評、長期避難、健康不安の4つに焦点を当て、どのように対応してきたのか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。

2. 災害の始まり

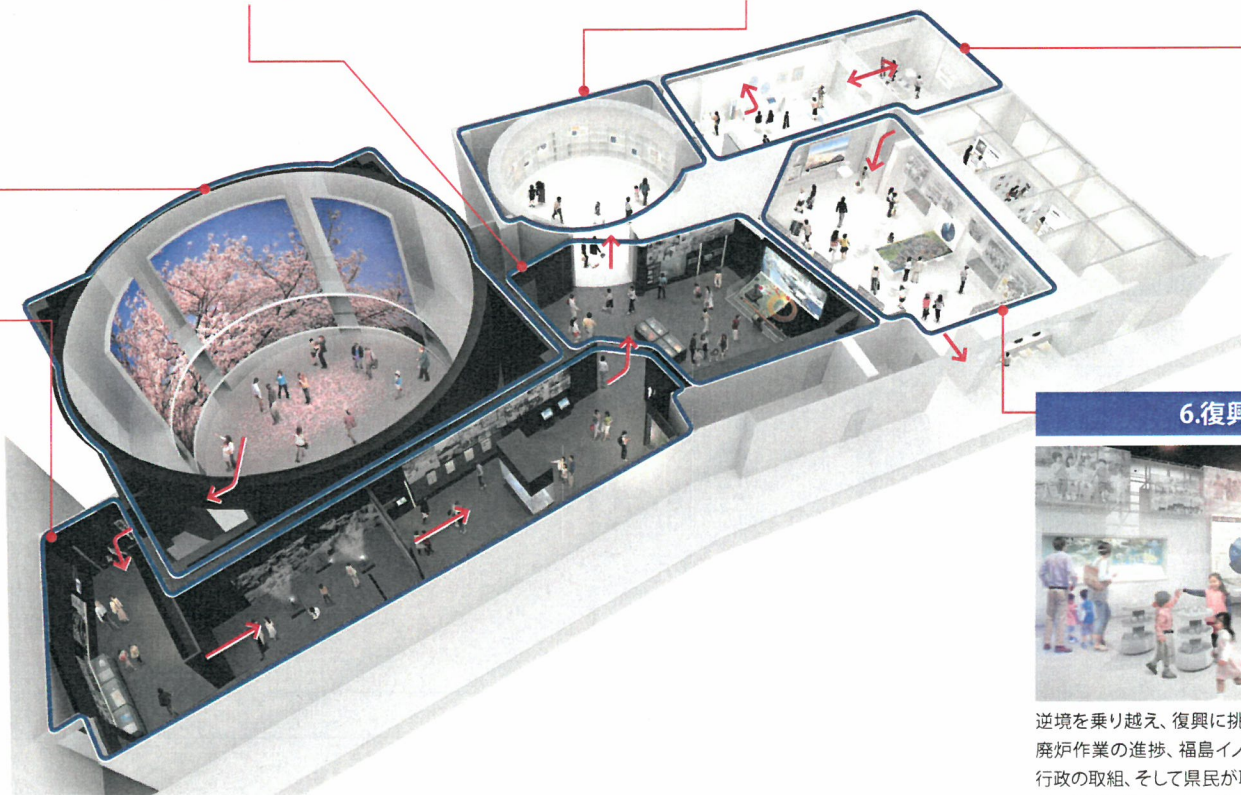


地域の生活が、地震・津波・原子力発電所事故により、どのように変わってしまったのか。当時の実写映像や被災した実物資料の展示により、地震・津波の被害の大きさを伝え、原子力発電所の模型や解説映像等を通して、発電所内で起きていた事象や当時の行政対応について解説する。



3面マルチ映像を使った事故当時の時系列映像解説

模型と映像を使って事故当時の様子を解説



6. 復興への挑戦



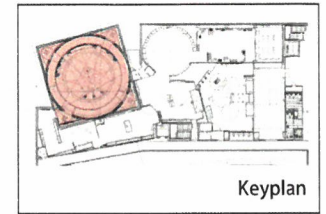
逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取組、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。また、まちづくり体験等により、来館者が福島の実情について考えるきっかけをつくる。

1.プロローグ (導入シアター)

原子力発電所と共存してきた地域の日常が、3.11の震災をきっかけに一変した。

地震、津波、そして原子力発電所事故というこれまで経験したことのない複合災害に直面し、手探りで対応した多くの人々の状況を、当時の映像を組み合わせることで伝え、続いて見学する展示ゾーンのエントロダクションとしての役割を担う。

当たり前の日常が災害により突如一変することを意識させ、この災害の「自分事化」のファーストステップの場とする。




■導入シアター空間イメージ




【導入シアター映像シナリオ】

- 1 イントロダクション**


県内各地の自然風景等の映像をとおして、福島県について紹介していく。


- 2 エネルギーの変遷と福島**


日本全体のエネルギー変遷を背景に、福島県のエネルギー産業も変化してきた。


- 3 原子力発電所と地域の共存共栄の様子**


原子力発電所が建設され、発電された電気は日本の経済を支えた。地域も原子力発電所と共存しながら発展し、平穏な地域の日常が営まれていた。


- 4 3.11**


巨大な地震の発生、大津波の襲来。原子力発電所へも津波が襲い、平穏な日常生活が一変する…


- 5 原子力発電所事故、避難の開始**


大気中に放出される放射性物質。避難場所を転々とし、先の見えない不安を抱く人々。当時の映像を組み合わせ、避難開始時の混乱した状況を伝える。


- 6 避難を余儀なくされた町**

住民が避難した後の町並み。長期にわたる避難生活。風評等による産業への打撃。原子力災害特有の困難な状況を伝える。

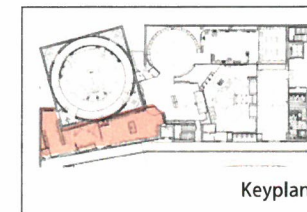

- 7 除染～帰還へ**

除染作業が進み、避難指示が順次解除されている。廃炉作業等、復興への道のりは時間がかかるが、一歩ずつ復興へ歩みを進める姿を見せる。



2.災害の始まり

平穏な暮らしを一変させた地震と津波、それに続く原子力発電所事故。複合災害の発生を受け、人々はどのように行動したのか。事故前・事故当時・事故直後の状況を時系列でたどり、様々な資料・証言・事故調査の記録から、原子力発電所事故の始まりを克明に描いていく。



■コーナーの展示概要

2-3 原子力発電所事故の発生

津波到達後、原子力発電所で起きた事象について原子力発電所模型や解説映像によりたどっていく。



◆映像と模型による複合演出について
 原子力発電所解説映像／原子力発電所模型
 地震発生、電源喪失、メルトダウン、水素爆発、放射性物質の放出…原子力発電所内で起きた事象について、福島第一原子力発電所の模型と解説映像で伝える。



2-4 災害対策本部の記録

かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫感とともに伝える。



2-1 事故前の暮らし

事故前の原子力発電所周辺地域の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや行事、学校生活、商店の賑わい、地元の経済を支えていた各種産業など、日常をかたちづけていたものごとを記録や証言を通し、描き出す。



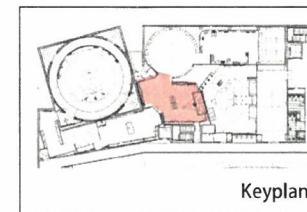
2-2 東日本大震災 ～地震と津波の記録～

原子力発電所事故のきっかけとなった地震と津波の被害について、当時の映像や被災した実物資料を通して伝える。また、地震・津波発生前の穏やかな時の流れと、被災後の状況を対比し、被害の大きさを感じてもらう。

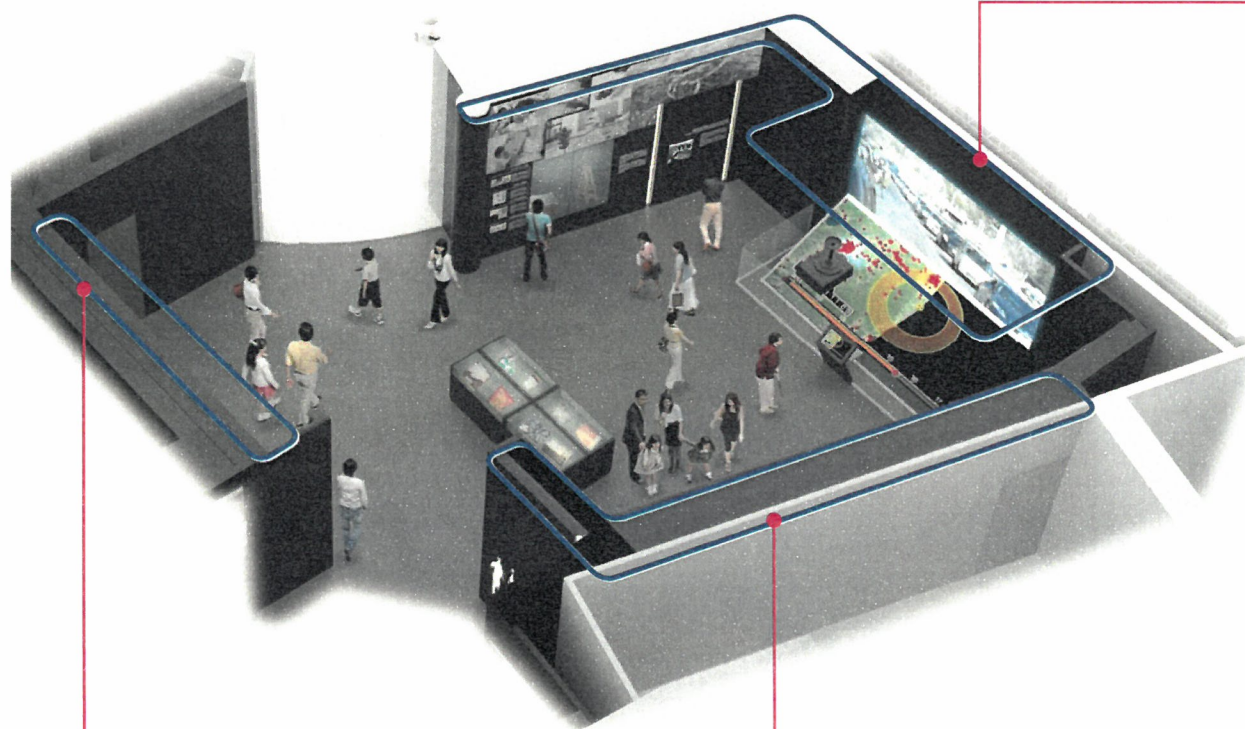
◆映像演出について
 地震・津波の様子
 福島県沿岸部を壊滅させた地震・津波の恐ろしさを、実写映像を組み合わせ、時系列に沿って3面マルチ映像で映し出す。

3.原子力発電所事故直後の対応

錯綜する情報、転々とする避難生活。これまで経験したことのない原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、避難などの様子に焦点を当て、様々な資料や証言などをもとに振り返る。



■コーナーの展示概要



3-2 県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応を、放射線の影響範囲や避難指示区域などの情報と共に伝える。

また、未だに続く風評の始まりとして、原子力発電所事故により福島県が被った産業への影響の大きさを伝える。

◆ビッグデータを活用した映像演出について

「原発避難の7日間」

膨大なビッグデータや当事者の証言から明らかになってきた、3月11日の発災から7日間の軌跡を、当時の実写映像と、ビッグデータ（NHK協力）による解析映像をシンクロさせることで分かりやすく提示し、災害初期における行動の重要性を改めて訴求する。



3-3 国内外の反応と支援

原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応について、海外の報道映像等を通して紹介する。さらに東日本大震災をきっかけに始まったクラウドファンディングやSNSを活用した支援など、これまでの大規模災害とは異なる取組を伝えるとともに、様々な支援に対する感謝を伝える。

3-1 避難の開始

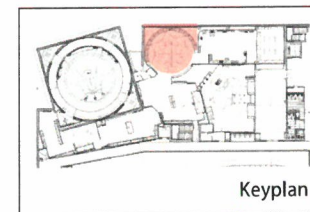
避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。また、避難所で使われた品々の展示を通して、当時の避難生活の教訓を伝えるとともに、現在の防災計画との比較等を通して、災害への日頃の備えの重要性を訴求する。



4. 県民の想い

平穏な日常が原子力発電所事故後にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせる。

特に、広域的・長期的な避難、あらゆる分野への風評など、原子力災害特有の事象を中心に発信する。



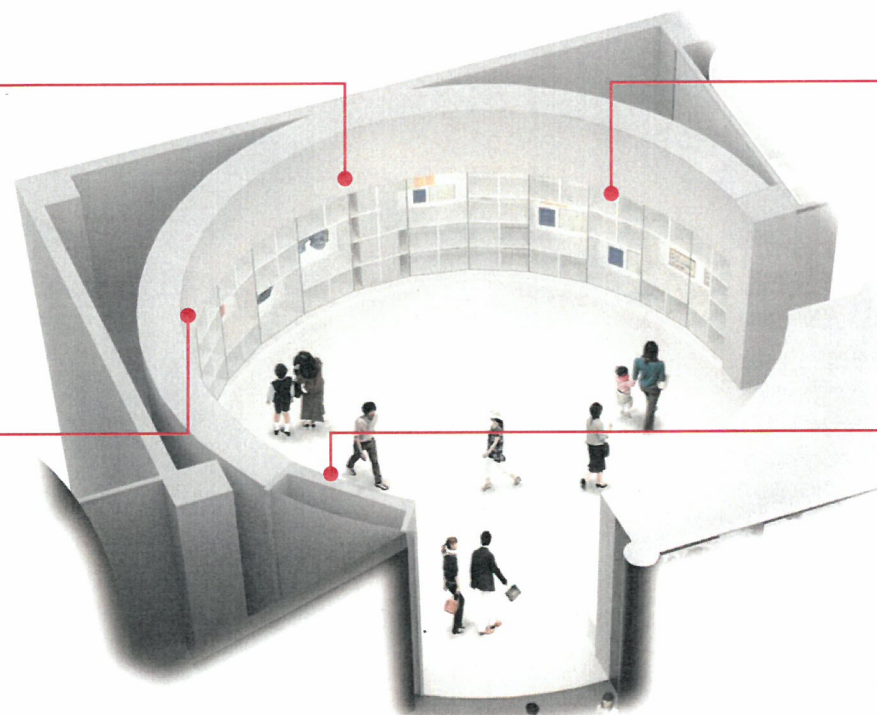
■コーナーの展示概要

4-3 家族との思い出や地域生活と別れ

地域の人々は伝統的な風習や歴史・文化を協力して守ってきた。ここではそれらの記録とともに、事故を機に離ればなれになってしまった故郷の人々への想い等を来館者と共有する。

4-2 楽しかった学校生活と突然の別れ

家族、先生、地域の人々、そして友達に囲まれながら送っていた学校生活。しかし、事故発生により、そんな楽しかった学校生活も失われてしまった。ここでは事故前の子供たちの学校生活の思い出や、その後の別れや友人たちへの想いなどを来館者と共有する。



4-4 生活基盤の喪失と将来への不安

原子力発電所事故は、福島県内の経済・産業へ深刻な影響を及ぼし、人々の生活基盤を揺るがした。また住み慣れた故郷を後に別の場所で生活を送り始めた人々もいる。ここではそれぞれの想いについて来館者と共有する。

4-1 災害時に感じた不安・恐れ

東日本大震災が起きた瞬間、そして原子力発電所事故の発生を知った瞬間、それまで平穏に暮らしていた人々の心によぎった様々な想い。ここでは、震災・事故の瞬間を捉えた記録や痕跡とともに、災害発生時の状況や、災害・事故発生時に人々が感じた恐れや不安について来館者と共有する。

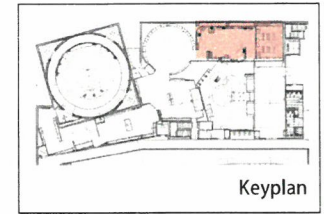
◆県民の想いを伝える震災関連資料と映像の複合演出展示について

原子力発電所事故前と事故後の人々の暮らし、心情の変化を、証言映像と展示物を組み合わせ、スクリーン全体を活かしたマルチ映像で表現。

通常時	震災関連資料展示 証言映像	・震災関連の資料展示として活用 ・証言映像	
	映像と展示物の複合演出	・映像の一部が透けて展示物が見える演出やプロジェクションマッピングの手法を用いて、来館者のイメージを増幅	
映像演出時	パノラマスクリーン演出	・パノラマスクリーンとして来館者の没入感を演出	

5.長期化する原子力災害の影響

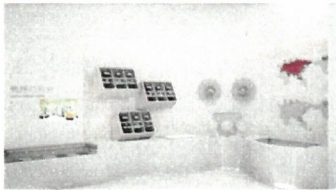
原子力災害が長期化する中で、福島県の人々がどのように対応してきたか、タッチパネル解説や資料を通して学んでもらう。特に、測定機器などの実物資料を活用した研修やワークショップを行うことで、原子力災害の特徴や実態への気付き・学びを提供する。



■コーナーの展示概要

5-2 風評の払拭

原子力発電所事故が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取組を紹介する。



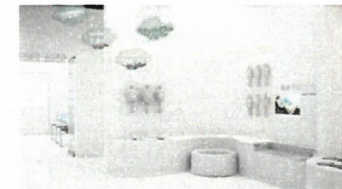
5-5 研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。様々な資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



5-4 健康不安への対応

原子力発電所事故由来の放射線による健康への影響は、現時点で確認されていないが、前例がない状況の中で、県民の健康状態を把握し、健康維持、増進を図るために実施されている様々な取組について紹介する。



5-1 除染

原子力発電所事故後、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け、帰還困難区域で現在進められている除染の状況について紹介する。



5-3 長期避難への対応

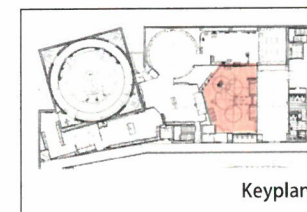
長期避難がもたらす問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取組を紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



6.復興への挑戦

逆境を乗り越え、復興に挑戦する福島県の姿を紹介する。

廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取組、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促す。



■コーナーの展示概要

6-1 行政による復興への取組

災害の発生からこれまでの復興の歩みと、現在の取組について、最新情報を届ける。

更新可能な展示システムを整備し、産業の復興、まちづくりの状況など、常に新しい情報を得られる場とする。

6-2 廃炉の今

福島第一原子力発電所における廃炉作業の内容をタッチパネル解説等で分かりやすく伝える。

事故発生から現在までの時系列に沿って、作業経過や、廃炉に関連して開発された技術などの情報発信を行う。

6-3 福島イノベーション・コースト構想の取組

浜通り地域の産業回復を目指す福島イノベーション・コースト構想と連携し、先端技術のデモンストレーション等を通して、最新の取組を紹介する。また、新産業の現場への回遊、ツーリズムの紹介などを行うゲートウェイとして機能させる。



6-5 チャレンジ!ふくしま (県民による復興への取組)

原子力災害によって県民が直面した様々な困難。それを乗り越え、地域の再生に向けた取組など、県民によるチャレンジを紹介する。

随時更新可能な展示システムとし、常に新しい取組を紹介するとともに、未来への県民の想いを伝える。

6-4 未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちを一緒に想像してもらい、福島の未来について考えるきっかけとする。

◆タッチパネルコンテンツについて みんなで作る未来のまち

来館者が「こうなったらいいな」と思い描く未来のまちを作り上げていくシミュレーションゲーム。

同時に6人が体験でき、いくつかのアイテムを選択すると、それに応じてまちが作られていく。また、まちづくりの過程で、福島イノベーション・コースト構想の取組についても紹介していく。

